

平成30年度 千葉県総合教育センター・千葉県子どもと親のサポートセンター
研究発表会のご案内！！

千葉の子どもたちの未来のために

～社会の変化に対応できる資質・能力の育成をめざして～

日時 平成31年2月22日(金) 9:20～16:30
(全体会 受付9:00～9:15)

会場 千葉県総合教育センター

全体講演 9:30～11:00



「新学習指導要領が求めるこれからの授業」

国立大学法人 横浜国立大学
名誉教授 高木 展郎 氏

研究発表等 11:10～12:00 13:00～16:30

高等学校授業ライブラリの紹介

【カリキュラム開発部 研究開発担当】

これからの時代に求められる資質・能力を育成するための
カリキュラム・マネジメントに関する研究

～子どもたちの主体的・対話的で深い学びを通して～

【カリキュラム開発部 研究開発担当】

地域の教育相談力拡充に向けての現状と課題

～義務教育修了後の地域における教育相談体制の在り方
についての一考察～

【子どもと親のサポートセンター 教育相談部】

児童生徒が自己の変容に気づき、資質・能力
を伸ばすための指導方法と評価方法の在り方

【カリキュラム開発部 科学技術教育担当】

全国学力・学習状況調査について

～千葉の子どもたちの学力向上に向けて～

【学力調査部】

障害のある児童生徒が自立と社会参加するために
必要な資質・能力を育成するための
カリキュラム・マネジメントに関する研究

～障害種の異なる特別支援学校の実践から～

【特別支援教育部】

各教科等の特性に応じたプログラミング 教育の指導法に関する研究

【カリキュラム開発部 メディア教育担当】

幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続を図る カリキュラムについての研究

【カリキュラム開発部 研究開発担当】

各研究発表の詳しい内容や時程等につきましては、別紙案内チラシ
および千葉県総合教育センターWebサイトにて御確認ください。

県立図書館では、学校への支援を行っています

県立中央図書館

1 県立図書館の学校支援について

県立図書館は、県内高等学校や特別支援学校対象のサービスを行っています。

(1)貸出・資料調査

リクエストに応じ、資料提供や調べ物のお手伝いを行っています。往復の送料は無料、資料は1冊からお届けします。学校に貸し出す資料の中で、利用が多いテーマは『学校用セット』（写真）として、県立図書館巡回車又は郵送で学校へお届けします。



現在 11 分野 128 セット用意しています。詳しくは、県立図書館ホームページ内の「学校の先生方へ」をご覧ください。

学校の先生方へ

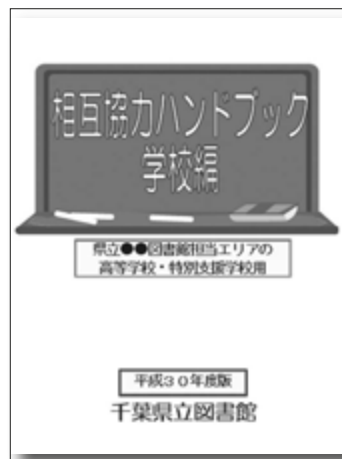
(<https://www.library.pref.chiba.lg.jp/school/index.html>)

(2)運営相談

本のリクエストや調べ物以外にも、学校図書館の整備・運営についてご相談をお受けしています。学校に伺ってお話を聞いたり、生徒が読み聞かせを行うための『読み聞かせ講座』などを行ったりしています。

2 相互協力ハンドブック(学校編)について

利用のご案内『相互協力ハンドブック(学校編)』をご用意し、利用登録いただいた高校・特別支援学校へ送付しています。ハンドブックには、詳しい利用方法や貸出期間等について記載しています。



ハンドブック表紙例

3 登録・利用について

平成 29 年度は、学校関係に調べ学習等で約 2 万 4 千冊の貸出しがありました。県立図書館をご利用いただく事で、生徒の皆さんや先生方に学校図書館にはない資料をご活用いただけます。ぜひ、県立図書館のサービスをご利用ください。

■この件に関する問い合わせ先■

県立中央図書館 図書館連携課
TEL 043-222-0116 (代)

「子どもの読書活動推進センター」をご存知ですか？

県立中央図書館

1 「子どもの読書活動推進センター」について

県立図書館では、平成27年度から「子どもの読書活動推進センター」を設置しました。「第2期千葉県教育振興基本計画」並びに「千葉県子どもの読書活動推進計画（第3次）」に基づき、市町村や学校の図書館等と連携し、図書館資料の貸出しや運営相談、職員研修など、子供が読書に親しむ機会の提供や読書活動の充実を支援するために活動しています。

2 センターの業務

「子どもの読書活動推進センター」は県民へ直接サービスするほか、高等学校や特別支援学校、市町村立図書館等への支援を行っています（下図参照）。

特に次の3点に力を入れています。

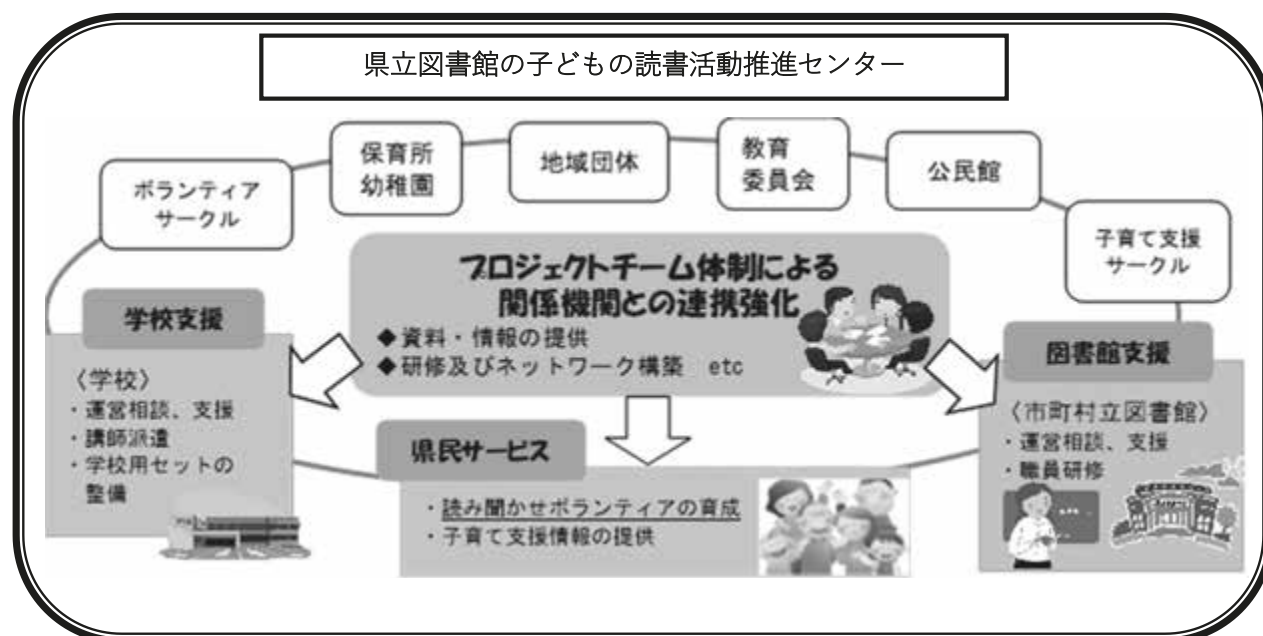
- ①子供の読書活動推進に関する施策、サービス等の調査研究、普及啓発
- ②図書館資料の収集と整備
- ③担当者の研修及びネットワークの構築（連絡調整、情報の共有、人や組織の連携等）

なお、「子どもの読書活動推進センター」の取組については、県立図書館のホームページ内、「子どもの読書活動推進センター」のページでご覧いただけます。

<https://www.library.pref.chiba.lg.jp/guide/suishin/index.html>

■この件に関する問い合わせ先■

県立中央図書館 児童資料室
TEL 043-222-0116（代）



科学的思考力を高める指導方法と評価方法

～資料作成システムの活用と他教科への応用を目指して～

県総合教育センターカリキュラム開発部科学技術教育担当

1 「資料作成システムについて」

「全国学力・学習状況調査分析結果報告書(6)中学校理科」から、本県の中学生は、科学的な概念を使用して考えたり、説明したりすることに課題があることが分かった。

この状況を改善すべく、科学的思考力を高める効果的な指導方法と、児童生徒が理科学習を進めていく上で自己の変容を実感できる評価方法について、3年間調査研究を行った。

その成果の一つとして、理科授業における指導と評価を支援する学習ツールを開発するとともに、校種や各学年、単元の内容に細かく対応できる「資料作成システム」を県総合教育センター Web サイトからダウンロードできるようにした。

2 活用できる資料について

(1)コミュニケーションカード

コア知識（理科で用いる専門用語、科学的概念や法則などその単元の基礎となる知識）を参考に作成し、単元の既習事項が記載されているカードと、学習した内容を活用して発展的な課題や単元の重要事項を説明するカードの2種類で構成されている。コミュニケーションカードを予想や考察の場面で活用することで、自分の考えを明確に説明したりグループの話し合いを活発にしたりすることができる。この学習活動により、コミュニケーション能力が高まる。

(2)自由記入式観察実験記録用紙

理科の観察実験を行う際に、実験目的、予想、方法、結果、考察の項目ごとに自由に記述できるシートである。タイトルも自分で決めて記入できる。同じ様式なので繰

り返し使用することで、多様な発想による実験が展開されることが期待される。

(3)振り返りシート

学習の前後での思考の変容が可視化された1ページのポートフォリオである。シートの折り方を工夫し、学習の前と後の思考をそれぞれ記入する。シートを開いて一覧すると、記入者自身が思考の変容を自覚できる。また、他と共有することができると同時に教員もそれを見ることにより、授業改善に生かすことができる。(図1)



図1 振り返りシート

(4)ルーブリック

到達基準を3段階または4段階に設定し、どの段階まで到達したのかを評価するものである。目標や評価基準が明確になり、複数の教員でも同じ評価を出せる。児童生徒用ルーブリックも併せて作成し、自己評価もできるようにした。

(5)年間活用計画

理科学習指導計画の中に、上記の学習資料の活用場面を位置付けた一覧表である。

3 活用にあたって

資料を活用するに当たり、次のことに配慮する必要がある。

・児童生徒が記入する時間を確保する。

- ・短時間でチェックし返却する。
- ・変容を適切に評価する基準を設ける。

4 ダウンロードの方法

県総合教育センターのWebサイトのトップページ左メニューから「調査・研究 → 調査・研究報告書 → 科学技術教育」と進み、圧縮ファイルをダウンロードして展開、「資料作成システムポータル」ファイルを開く。

5 本年度の取組

科学技術教育担当では、「児童生徒が自己の変容に気づき、資質・能力を伸ばすための指導方法と評価方法の在り方」についての調査研究を進めている。昨年度までは理科における効果的な指導方法と評価の研究を行った。本年度はその成果を他の教科にも広く応用し、活用するための研究である。8月には昨年度の調査研究の成果を広めるため、研修事業を2回実施し、参加者は延べ約150名となった。指導資料、評価資料について、各日2種類ずつの資料に分けて実施した。講師から効果的な活用方法の講話を頂戴し、昨年の研究協力員からは活用事例の報告が行われた。参加者による演習も実施し、学校種や専門教科も多岐にわたる中、資料の活用を体験でき、すぐに役立つ授業改善のヒント提供の一助となった。アンケートの意見にも「評価について考えるきっかけになった。」「授業に取り入れて実践してみたい。」など肯定的な意見が多かった。本研修後は校内研修等で、指導資料、評価資料の効果的な活用や実践を伝えられることが期待できる。研修事業としては新規のものであるが、継続を予定している。

また、研究協力員の所属する学校での授業研究を通して検討を重ねている。6月には中学校で、9月には小学校で授業研究と

検討会、研究協力員会議を行い、理科以外での教科で資料の効果的な活用に向けての研究を踏み出したところである。異なる教科や学校による工夫や改良が可能であることが検証された反面、教科の特性から、すべての資料が活用できるのかという疑問や課題も明らかになってきた。今後も中学校、高等学校での授業研究を通して調査研究を進めていく予定である。そこでは、活用にあたっての配慮事項を考慮しながら、児童生徒の変容の可視化、効果的な評価の在り方についての検証を重ねていく。いくつかの教科を対象に思考力を高める効果的な指導方法と、児童生徒が学習を進めていく上で自己の変容を実感できる評価方法についての調査研究内容を深めるものとする。広く一般化に向けての研究であるが、この研究の成果を、初任教員からベテラン教員まで、経験年数に関わりなく活用できる指導方法、評価方法とし、児童生徒の資質・能力の向上と県内教員の授業改善に役立つ内容として報告する。

6 おわりに

研究報告及び、協力校での活用例を「科学技術教育（通巻229号）」誌に特集した。

活用例は、小学校2校、中学校3校、高等学校2校の授業実践としてまとめている。

児童生徒の実態に応じて発問を変えたり、児童生徒用ルーブリックを提示したりすると児童生徒の関心が高まる事例等、（通巻229号）（6M）すぐに役立つ内容として掲載した。（図2）

更に使いやすい資料とするために、御意見をいただけたら幸いである。

連絡先：sosekagaku@chiba-c.ed.jp



図2 科学技術教育
関心が高まる事例等、（通巻229号）（6M）